

# 震度階級の解説表が 新しくなりました

～「気象庁震度階級関連解説表」の改定(H21.3.31)～

## 震度階級の解説表って？

震度は、地震による揺れの強さを総合的に表す指標で、防災対応の基準として利用されています。「気象庁震度階級関連解説表」は、ある震度が観測されたときに、その周辺で、どのような現象や被害が発生するかの目安を示す資料です。

## 震度はどうやって決める？

気象庁が発表する震度は、地震の揺れの強さを震度計で観測したものです。発生した現象や被害の様子から決めるものではありません。発表する震度は「震度計のある場所」の震度であり、同じ市区町村内でも場所が違えば震度が異なる場合があります。

※今回の改定は震度そのものを変更するものではありません。

わかりやすくなった新しい解説表を、イラスト付きの資料(裏面)にまとめました。見やすい所に貼るなどして、日頃からの防災対策にお役立てください。



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

詳しい解説表は、気象庁ホームページ等で公開しています。

参照ホームページ：<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>



国土交通省 気象庁

# 震度と揺れ等の状況(概要)

**0**

**[震度0]**  
人は揺れを感じない。

**1**

**[震度1]**  
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

**2**

**[震度2]**  
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

**3**

**[震度3]**  
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

**4**

**[震度4]**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

**6弱**

**[震度6弱]**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い

耐震性が低い

**5弱**

**[震度5弱]**

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

**6強**

**[震度6強]**

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い

耐震性が低い

**5強**

**[震度5強]**

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

**7**

**[震度7]**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

耐震性が高い

耐震性が低い

地震が起きたら
あわてず、まず身の安全を!!
緊急地震速報を見聞きしたら

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてた行動、けがのもと

- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- 近づくな、門や塀、自動販売機やビルのそば
- 海岸でぐらっときたら高台へ

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!